



調査者が開発した野外的実験施設で、シジミの生存数を確認する

公益財団法人 宍道湖・中海汽水湖研究所

汽水湖にふさわしい湖沼保全策の検証 及びヤマトシジミ資源回復のための活動 —宍道湖をモデルとした提案—

一般助成

3年目

調査研究

野外施設での底質改善実験
2016年4月～17年3月

24回

報告会参加者

18人

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

宍道湖を代表する生物、漁業資源であるヤマトシジミが危機的に減少してきたことをきっかけに、この現象と湖の環境保全対策の関係を捉えなおしてみること。

目標

①ヤマトシジミ資源の減少について、その回復策を検証する。②指定湖沼制度以降に実施された宍道湖保全施策の効果を検証する。③宍道湖に流入する河川で、市民と協働する調査を行ったり、その仕組みづくりをする。

活動内容

ヤマトシジミの資源回復の方策を探るなかで、1.シジミの生息環境(底質と餌に注目した)を向上させる実験の実施。2.第6期水質保全計画(宍道湖)の検証、宍道湖と宍道湖流入河川の水質の推移とシジミ資源の消長との関連分析等を通じての汽水湖に見合う施策転換を促すための活動。3.専門家の生物調査や市民と協働する調査を継続し、宍道湖に流入する河川と宍道湖本体の関係について共通認識を育む活動に取り組んだ。



3年間の調査の取りまとめとして湖沼
施策に関する提言(案)を公表

達成できなかったこと

市民と協働する調査の仕組みづくり。観察会指導者としてボランティア希望者が不在であったこと、マニュアル作成では、利用する指導者像が曖昧だったため進捗しなかった。

今後の展望

●シジミの生息環境改善実験を、公開で再現する。●提言が、今後どのように反映されるのか注視していく。

成果と工夫した ポイント



成果

1. 地域に潜在する資源を利用する新しい底質改善法の開発により、低コストで有効な底質改善が実現する見通し。
2. 施策検証の成果として、最終年度「宍道湖・中海の環境保全施策に関する提言(案)」を公表した。

工夫

活動の経過報告や説明を宍道湖シジミ漁師による小規模な勉強会等に出向き、行った。